

# 建設産業女性定着支援 ネットワーク ブロック意見交換会 2023



国土交通省



一般財団法人  
建設業振興基金

## 1. 開催概要

○目的：柔軟な働き方の導入に向けた事例集に対する意見や、若年者向け魅力発信の取組を継続していくために必要なことについて意見交換を実施するとともに、全国大会での次期行動計画に関する議論に向け、参考となる意見を収集し、議論の活発化を図る。また、地域団体の活動の水平展開および団体間での相互交流を通じて、地域ぐるみでの団体の活動充実を図る。

○日程：

北海道・東北・北陸ブロック	令和6年1月23日（火）	14：00～16：00	（WEB開催）
関東・甲信ブロック	令和6年1月24日（水）	14：00～16：00	（WEB開催）
九州・沖縄ブロック	令和6年1月25日（木）	14：00～16：00	（WEB開催）
東海・近畿・中国・四国ブロック	令和6年1月30日（火）	14：00～16：00	（WEB開催）

○開催方法：oVice（バーチャルオフィスツール）を使用

○参加団体：ネットワーク登録団体、建設業団体、国土交通省、（一財）建設業振興基金

○参加人数：

北海道・東北・北陸ブロック	31人
関東・甲信ブロック	43人
九州・沖縄ブロック	26人
東海・近畿・中国・四国ブロック	38人

## 2. 実施内容

### 《議事》

#### (1) 建設産業女性定着支援ネットワークの取組み状況

→事務局より説明。中小建設企業の柔軟な働き方への取組事例集についてはサンプルを用いて紹介。  
若者の入職促進を目的とした中学生以下対象の建設産業の魅力発信のイベントの分析結果等を紹介。

#### (2) 登録団体の取組み紹介

→以下団体から、取組についての紹介。

#### 取組み発表団体

- |                  |   |
|------------------|---|
| ○北海道・東北・北陸ブロック   | : あきた建設女性ネットワーク「クローバー」<br>(一社) 福島県建設業協会 ふくしま建女会 |
| ○関東・甲信ブロック       | : (一社) 土木技術者女性の会<br>全国低層住宅労務安全協議会 じゅうたく小町部会     |
| ○九州・沖縄ブロック       | : ながさき建設女子ネットワーク ~よりより~<br>team けんせつ美ら小町        |
| ○東海・近畿・中国・四国ブロック | : とっとり建設☆女星ネットワーク<br>しまね建設産業イメージアップ女子会          |

#### (3) グループ意見交換会

→参加団体を2つのグループに分け、以下2つのテーマに沿って意見交換を実施。

<テーマ>

- ①柔軟な働き方の導入に向けた事例集に対する意見、各団体による水平展開について
- ②今年度の若年者向け魅力発信の取組を継続していくために必要なこと（課題）について

## 3. グループ意見交換会における各団体からの声

### <テーマ①>柔軟な働き方の導入に向けた事例集に対する意見、各団体による水平展開について

- ・柔軟な働き方以前に快適トイレなどの環境整備を改善して欲しい。女性の考えを上司や男性にも知ってもらいたい。
- ・経営者が危機感を持って取り組まれている点が良い。
- ・事例集を作成してもらおうと、社内で共有がしやすく感じてよいと感じる。
- ・事例集に「社員の声」があるのは良いと思う。柔軟な働き方の実現にあたっては、経営者が実施していることについて社員がどう思うかが大切であり、経営者としてもそこに関心があるのではないかと感じる。
- ・こうした事例を目の当たりにすると、技能者として働き続けられることを女性自身も発信していくことが大切だと感じる。
- ・水平展開に関しては、専門誌への掲載はメリットもある一方で業界外へのPRが難しい面もある。SNSを積極的に活用し、職人の仕事の様子など、業界の魅力も業界外へも発信していくとよいのではないかと感じる。
- ・当団体では女性の雇用に関する企業の成功事例をHP掲載しており、広報活動も積極的に行っている。団体のもつ広報ツールを活用することも有効だと考えている。

### <テーマ②>今年度の若年者向け魅力発信の取組を継続していくために必要なこと（課題）について

- ・若者向けのイベントでは生きている現場を見せたいが、現場からは安全性の面から見学に後ろ向きな声もあり、見学が可能なのは大規模な現場に限られてしまう現状がある。
- ・コロナ禍で出前講座などが出来なくなり過去のパイプが無くなってしまったため、学校とのマッチングが難しい。
- ・イベント実施については、各団体の得意分野があると思うので、他団体とも協力して進めていきたい。
- ・建設業は小学生には人気があるが、学年が上がるにつれて興味が薄れていく傾向がある。中学生以上にどう訴求していくかが課題である。
- ・イベント講師や運営メンバーをどうやって増やしていくか、予算をどう生み出すかが課題である。
- ・子どもの意思決定には保護者の意見も重要だと考えられるため、保護者向けのイメージアップを行っていきたい。
- ・7年ほど中学校に対して「土木出張PR」を実施している。イベントに参加した中学生が建設産業に入職したという話もあるため、継続による効果は見え始めているように思える。HPや動画制作などの広報宣伝費をどうまかなうかが今後の課題となっている。